

岩手県金融経済概況（2019年2月）

1. 概況

県内経済は、生産面の一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかな回復基調を続けている。

最終需要の動きをみると、個人消費は底堅く推移している。公共投資は高水準ながらも減少している。住宅投資は回復している。設備投資は増加している。

生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。

労働需給は、引き締まった状況が続いている。

消費者物価（除く生鮮食品）は、25ヵ月連続で前年を上回った。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、底堅く推移している。

百貨店売上高（全店舗ベース；2019年1月）は、7ヵ月連続で前年を下回った（前年比△3.0%）。

スーパー売上高（全店舗ベース；2019年1月）は、3ヵ月連続で前年を上回った（前年比+1.1%）。

新車登録・届出台数（乗用車＜含む軽＞；2019年2月）は、5ヵ月連続で前年を上回った（前年比+8.0%）。

(2) 建設投資（公共投資、住宅投資、設備投資）

公共工事請負金額（2019年2月）は、2ヵ月振りに前年を上回った（前年比+51.5%）。

新設住宅着工戸数（2019年1月）は、2ヵ月連続で前年を下回った（前年比△6.7%）。

—— 持家（前年比△10.3%）は2ヵ月連続で前年を下回った。また、貸家（同+7.9%）は2ヵ月振りに前年を上回ったものの、分譲（同△26.7%）は2ヵ月振りに前年を下回った。

民間設備投資（短観ベース；2018年度計画）は、前年を若干下回る計画（前年比△2.8%）となっている。

—— 製造業は、電気機械を中心に1割方の下方修正となったものの、輸送用機械における新製品対応投資の増加等から全体では前年を2割弱上回る計画。一方、非製造業は、卸・小売や対個人サービスでの投資一服等から前年を2割方下回る見通し。

県内の官民建設工事全体の出来高総計（2019年1月）は、2ヵ月振りに前年を上回った（前年比+11.4%）。

3. 生産動向

生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。

鉱工業生産指数（季節調整値；2018年12月）は、3ヵ月振りに前月を下回った（前月比△4.2%）。

—— 主要業種別にみると、はん用機械、鉄鋼、電気機械が上昇し、輸送機械、食料品、生産用機械が低下した。

なお、四半期の動きをみると、2018/10～12月は前期を上回った（2018/1～3月：前期比△4.8%、4～6月：同+5.9%、7～9月：同+0.0%、10～12月：同+3.7%）。

4. 雇用・所得動向

労働需給は、引き締まった状況が続いている。

有効求人倍率（季節調整値；2019年1月）は、1.43倍と高水準を維持している（2013年5月以降69ヵ月連続で1.00倍以上で推移＜過去最長＞）。

雇用保険被保険者数（民間企業中心の全数調査；2019年1月）は、前年を上回った（前年比+0.5%；2012年3月以降83ヵ月連続で増加）。

雇用者所得（県内合計値；2018年12月）は、名目賃金指数（前年比+1.7%）

は前年を上回ったものの、常用雇用指数（同△5.1%）が前年を下回ったため、12ヵ月連続で前年を下回った（同△3.5%）。

5. 物価

消費者物価指数（除く生鮮食品；2019年1月）は、光熱・水道費等の上昇により、25ヵ月連続で前年を上回った（前年比+0.6%）。

6. 企業倒産

企業倒産（2019年2月）は、6件、563百万円（前年同月；2件、982百万円）と、件数は増加したものの負債金額は前年を下回っており、落ち着いた動き。

7. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金・貸出（2019年1月）は、預金は前年を下回った一方、貸出は前年を上回った。貸出約定平均金利（2019年1月）は前月に比べて低下した。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） <http://www3.boj.or.jp/morioka/>